

NMSH Topics 25 VOL.

January 2019

今月の 院長のイチオシ

精神神経科

うつや物忘れなど高齢者の精神症状の診療に豊富な経験と実績 治療抵抗性疾患へのECTを得意とし、各種専門外来も設置

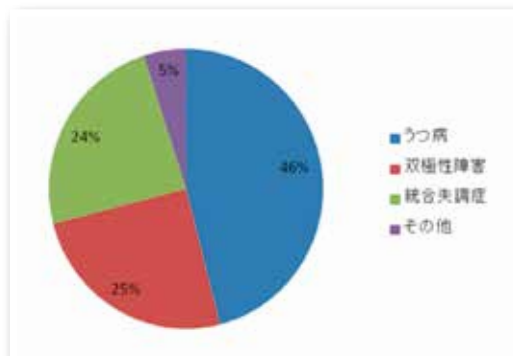
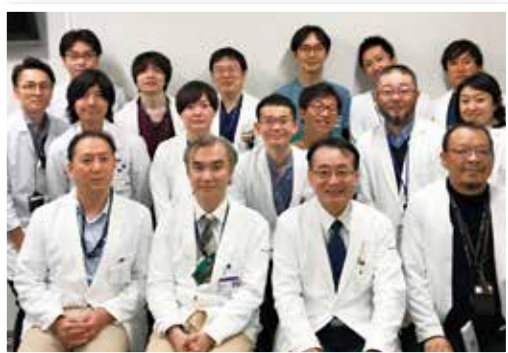
精神神経科では児童思春期から老年期までの、不安、抑うつから幻覚、健忘など、さまざまな精神症状に対する外来および入院診療を行っています。対象は幅広く、パニック障害など神経症性障害、うつ病など気分障害、統合失調症など精神病性障害、認知症など老年期精神障害、てんかん、発達障害などがあります。

特色の一つは、地域のニーズを反映して、健忘、うつ、幻覚など高齢者のさまざまな精神症状の診療を得意としていることです。かかりつけ医の先生方が、認知症かうつ病か迷われた際などにご紹介いただき、検査、鑑別診断した上でお返しすることが増えています。

当科の専門的治療の一つとしては、ECT(無けいれん性通電療法)があります。ECTは特に高齢者の治療抵抗性うつ病に有効であることが知られています。麻酔科と連携して安全にECTを行っていることから、かかりつけ医

の先生方から依頼を受けて連携医療を行うことが増えています。年間40~50例程度の治療実績があり、平成28年から日本総合病院精神医学会が、患者さんが安全なECTを受けられる施設を選ぶ際の目安として始めた日本総合病院精神医学会ECT研修施設にいち早く認定されています。治療実績は増加傾向にあり平成29年は56例、延べ582回の実績でした。

最後に、幅広い年齢層のさまざまな症状に対する診療にあたっては、日本精神神経学会の専門医はもちろん、小児精神、老年精神、認知症、睡眠障害、てんかんなど、各領域の専門医が、常に専門性の高い診療を提供しています。物忘れ、思春期、てんかん、不眠症、産前・産後外来、クロザリル外来などの専門外来を設けておりますので、ご遠慮なくご紹介、ご相談ください。



左：精神神経科スタッフ
右：ECTの対象疾患の割合